



情報コーナー



●教職員等からの相談

児童・生徒の教育相談に関わる問題解決のために、心理職及び指導主事が教職員等からの相談を受けています。また、高校進級・進路・入学相談は、専門の相談員が情報提供を行っています。

まずは、相談受付**03-5800-8008**までお電話ください。

- 電話相談受付時間 平日 9:00～21:00 土・日・祝 9:00～17:00
- 来所相談時間 平日 9:00～17:00
- 電子メール相談 24時間受付

相談例

- 児童・生徒理解と指導 (不登校、発達障害、いじめ、非行、虐待など)
- 学年・学級(ホームルーム)経営 (教育相談的な手法を生かした指導など)
- 学校教育相談の推進 (学校教育相談体制の在り方、構築など)
- 高校進級・進路・入学に関わる相談
- 文献・資料等の情報 など

✿ 学生アドバイザースタッフ派遣

不登校及び不登校気味の児童・生徒(以下、生徒等とする)に対して、学校や家庭に学生が出向き、話し相手・遊び相手をします。

■学校への派遣

- 派遣先：都内の公立幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校
- 派遣対象：保健室などへ登校はできるが、教室に入れない生徒等
- 派遣回数：週に1回2時間、1回の申請で5回派遣、継続申請可能
- 活動内容：対象生徒等との話し相手・遊び相手(学校内の別室での個別対応)
- 申し込み：学校の管理職をととして電話でお申し込みください。

■家庭への派遣

- 派遣先：都内の家庭
- 派遣対象：登校できず、教育相談室等にも通えていない生徒等
- 派遣回数：週に1回2時間、1回の申請で5回派遣、継続申請可能
- 活動内容：対象生徒等との話し相手・遊び相手(保護者在宅時)
- 申し込み：保護者が電話でお申し込みください。

詳細については、東京都教育相談センターまでお問い合わせください。

電話番号 学校教育相談室**03-5800-8309**

●東京都教育相談センターホームページ <http://www.e-sodan.metro.tokyo.jp> でも御覧いただけます。●



広報
すこやかさん

東京都教育相談センター
<http://www.e-sodan.metro.tokyo.jp>

〒113-0033 東京都文京区本郷1-3-3
TEL 03-5800-8545 FAX 03-5800-8402

第20号
平成19年11月発行

子供たちの心を受け止め 支え 育てていくこと

東京都教育相談センター 統括指導主事 河合 雅彦

今、子供たちには、教育相談的なかかわりが必要です。当センターには、子供たちにかかわる相談が毎日寄せられています。

「子供が学校に行かない」といった保護者からの相談や、「指導がかよわない」「リストカットを繰り返している」といった教師からの相談など、内容は子供たちの心の発達に応じ、様々で複雑なものとなっています。

学校では、スクールカウンセラーの配置が進み、教育相談の充実が図られています。しかし、学校における教育相談的なかかわりを築くためには、すべての教師がその基本を理解し、子供の心を受け止めることが重要となります。

子供たちは、一日の大半を学校で過ごします。その多くが授業の時間となります。そして、教師が毎日かわれる場合は授業であり、そこでの積極的なかかわりが子供の心をはぐくむことにつながります。

■子供の声をじっくり聴いてみましょう

子供たちを理解するためには、子供の気持ちをしっかり聴くことが必要です。言葉には、伝えたい事柄とともに本人の感情が含まれているからです。

たとえば、事前に用意した発問をするだけでなく、子供の反応を生かした授業を組み立てていくことが重要です。教師がよい聞き手となり、子供の発言やつぶやきなどを拾おうという気持ちを持ち、それを生かす発問をすることで、子供は主体的に授業に参加できるようになります。

集団学習のよさは、互いの意見を聞き合い、自分の考えを振り返ったり新たな発見をしたりすることにあります。そのためには、教師が十分に子供の意見を聴くことが必要となります。発言する子供にきちんと向き合って聴き、その発言を子供たちの中でつなげていくことが大切です。

■子供の見方や感情に注意を向けてみましょう

子供の思いを共感的に受け止めていくことが必要です。子供たちは、教師に理解されることで自己理解を深め問題解決に向け動き始めます。また、共感的に受け止められることで人間関係が構築され、教師と子供との信頼感がはぐくまれていくからです。

たとえば、個別に配慮した学習指導案の作成や子供たちが自由に工夫できる教材の準備など、一人一人の子供が活躍する姿を思い浮かべながら指導計画を工夫することが大切です。また、子供一人一人の理解度や表情をよく確認しながら話をすることも重要です。理解が不足しているようなら、説明の仕方を変えてみたり、補助教材を使ったりする工夫が必要です。そして、気になる子供がいたら「どうしたの?」などと声をかけ、子供が出しているサインに気づき、かかわっていくことが大切です。

■子供の気持ちを受け止めましょう

子供にどんなときにも温かく深い愛情をもって対応することが必要です。特に、心を閉ざしがちな子供は、教師の何気ない言葉やちょっとした仕草に敏感です。まず、子供の感情や理屈を受け止め、その上でしっかり指導することが教師には必要になります。

たとえば、みんなの前でうまく言えないときや発言しないときにも、その子供に適した指名の仕方や言葉を工夫し、「うん、うん」「なるほど」と相づちを打ちながら聴くなど、教師の受容的な態度が支えとなります。子供の気持ちを受け止め、一人一人の子供が活躍できるようにすることが大切です。

今号は、「授業に生かす教育相談的なかかわり」をテーマとしました。子供の立場に立って共に考える授業は、子供たちの心を受け止め、支え、育てることにつながります。

東京都教育相談センター案内

受付電話番号 **03-5800-8008**

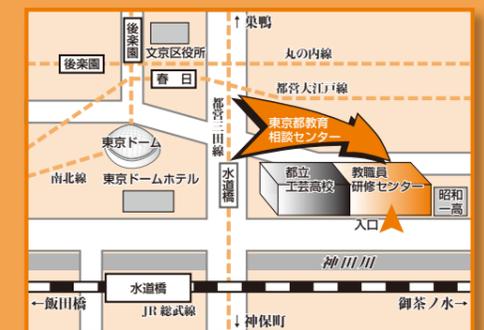
- 電話相談／平日 午前9時から午後9時まで
土・日・祝日 午前9時から午後5時まで(年末年始等を除く)

*上記以外及び閉庁日は、留守番電話及び電子メールにより対応しています。
<ホームページ> <http://www.e-sodan.metro.tokyo.jp>

- いじめ相談ホットライン／24時間対応 **03(5800)8288**

- 来所相談／平日 午前9時から午後5時まで
*電話でお申し込みください。
*立川出張相談室(立川市錦町6-3-1)においても応じています。

- 所在地／〒113-0033 東京都文京区本郷1-3-3



●広報「すこやかさん」第1号～第19号は、ホームページ上でも御覧いただけます。 <http://www.e-sodan.metro.tokyo.jp> ●



授業に生かす教育相談的なかかわり



今、子供にとって分かる授業を行い、確かな学力を育成することが求められています。一人一人の確かな学力の育成には、授業に教育相談的なかかわりを生かすことが必要です。ねらいを明確にして授業計画を作成するとともに、一人一人の子供の興味・関心、理解の程度などを丁寧に把握して、授業を実践することが大切です。授業を確かて豊かなものにするための教育相談的なかかわりの例を示します。



授業を始める前に

- <一人一人の活躍の場を>**
一人一人の子供が活躍する姿を思い浮かべながら指導計画を作成します。
- <学習指導案に個別の配慮を>**
特別な配慮が必要な子供は、個に応じた指導上の配慮点を指導案に記入します。
- <快適な教室環境の整備を>**
落ち着いて学習に取り組めるように、子供の立場に立って学習条件を整えます。

授業の始まりに

- <小さな変化をとらえて>**
子供の様子を見渡し、一人一人の健康状態や学習への姿勢を把握し、気になる子供には声をかけます。
- <子供の気持ちの切替えを>**
ゆとりをもって黒板の前に立ち、明るい声で授業の開始を伝えます。
- <一人一人と目を合わせて>**
一人一人と目を合わせながら名前を呼ぶことで、授業を進める教師の姿勢を伝えます。

授業の展開の中で

- 説明する <子供にあった分かりやすい説明を心がけます>**
 - 子供の興味、関心のある事柄や身近な例を取り上げます。
 - 一人一人の理解の状況を確認しながら話します。
 - 声の大きさや速さを工夫して、メリハリのある話し方を心がけます。
- 問いかける <一人一人の子供が生きる発問や指名をします>**
 - 一人一人の子供が活躍できるように発問を工夫します。
 - つぶやきなど、子供の考えや思いを授業の展開に生かして発問します。
 - 子供の表情をよく見て、子供の気持ちを生かした指名をします。
 - 「できた人」「分かる人」より、「書けた人」「やってくれる人」など、意欲を大切にされた指名をします。
 - 発問の後は、考える時間を十分にとり、子供の思いや考えを引き出します。

授業の終わりに

- <学習の振り返りを>**
感想を書かせたり話をさせたりすることで、何に気付いたかを、子供自身に確認させます。
- <子供の視点を次の授業に>**
授業での子供の疑問や意見を振り返り、次の授業への意欲付けを行います。
- <時間を守る>**
子供の立場を考えて授業時間を厳守します。

授業の場面でほめる・叱るポイント

【ほめる】<子供の努力や成長をほめます>

- ・よい発言や作品は、具体的にほめます。
教師 「様子がよく分かるように書いていて、とてもいいね。」
子供 『がんばったことをほめてくれるからうれしいな。』
- ・その子なりのよいところをとり上げます。
教師 「後ですぐ分かるようにノートのとり方を工夫したね。」
子供 『きれいに書くと気持ちいい。よく見てくれているな。』
- ・よくなった点を全体に話します。
教師 「準備と後片付け、班で協力できていたね。」
子供 『みんなで分担して力を合わせたことが認められた。』

子供たちの声

- 「ほめられるとき(叱られるとき)でも、友達と比べられるのは嫌だな。」
- 「叱るとき、前にあったことは持ち出さないでほしい。」

【叱る】<友達への迷惑や指導の妨げとなる行為はきちんと叱ります>

- ・授業を妨害し、みんなの迷惑になる行為に対しては、毅然として叱ります。
- ・子供の気持ちは受け止めますが、行為そのものは許さない姿勢を通します。
- ・できないこと、うまくいかないことを責めると、子供の自信を失わせます。
- ・不満が残っているようならば、授業後にきちんと聴くことを約束して授業を再開します。

教師を子供たちは見えています

教師の優しい声かけ、受容的な話の聴き方、にこやかな表情などは、子供たちに安心感を与え、授業に取り組む意欲を高めます。授業における教師自身の言葉や振る舞いは、子供たちから常に注目されていることを意識しましょう。



授業の後で

- <個別のフォローを>**
作業が終わらなかった子供、理解できていない子供には、時間を与えて指導します。
- <授業後の質問にも丁寧に>**
「先生に聞いてみよう」という雰囲気大切に、質問には丁寧に答えます。
- <指導記録の作成を>**
記録を残すことは、授業や子供への対応を振り返る上で貴重な資料となります。